

新型コロナウイルスに
関する報告書
～教訓から学ぶ～ 第二報
令和3年2月まとめ

法人名：社会福祉法人 ヒューマンライツ福祉協会

施設名：高齢者 グループホームなでしこ

報告者：福永 隆洋（管理者）

■施設の基本情報

○2ユニット 各9名 定員18名

2階 平均介護度 3

3階 平均介護度 2

※3階は、入居者の行動範囲が広く、「動ける認知症」のご利用者が多い

●職員合計 17名

2階 8名（管理者含む）

3階 9名（看護職1名・非常勤1名含む）

○法人の母体施設（特別養護老人ホームすずらん）・事務局が近隣に

■感染状況・経過・対応

- 11/17 介護職員のPCR検査結果の陽性が発覚
- 11/21 同フロアの入居者3名の有症状、陽性が発覚
陽性職員が発症前に入浴介助していた
- 11/23 保健所担当医による、来所唾液検査施行（全職員・入居者）⇒職員3名、入居者1名の陽性判明
- 11/29 入居者1名陽性（以上、3階職員、入居者）
- 12/10 3階職員1名陽性
- 12/15 2階職員1名陽性
- 12/17 2階入居者1名陽性
- 2021年¹/₄ 深夜0時をもってクラスター収束

I 本当に～こんなことに困りました

- ①不足備品の購入
- ②類似症状のある方への対応
- ③入院へスムーズに繋がらなかったこと
- ④陽性者を含めた入居者対応
- ⑤入院された方の状況把握
- ⑥自主避難を考えた職員対応
- ⑦入院を含めた家族様への情報発信
- ⑧訪問診療医の協力が得られなかった

Ⅱ 保健所とのやり取り

- 保健所との連携はスムーズに進み、ゾーニングの指導など大いに助けられた
- 類似症状のある方についての相談も応じてくれて、検査につなぐことができた
- 11/23に全検査ができたこと、入居者の状態変化に応じてアドバイスをいただいた
- 関係性がとれてきたことが、対策や職員の安心につながった
- 感染対策について、専門性のある方からの指導は有効で、職員の意識改革につながった

Ⅲ利用者様のご様子

- 認知症高齢者にとって、何が起きているのか、どう過ごしたらよいのか混乱が起きていた
- 普段では考えられない周辺症状を引き起こしていた
- 入居者様、スタッフともに過敏になり、負担が増したように思われる
- 認知症をお持ちの方にとって、居室での隔離対応を理解するのは困難で～共有スペースに出てこられるケースも多発し、感染リスクが高まった
- 入居者様にいつもと変わらない生活をしてもらいたい気持ちがスタッフのやりがいにつながった

IV スタッフはどう過ごした

防護服、フェイスシールド着用でサービスに当たるスタッフは～この期間どう過ごしたでしょうか？

- ・陽性者を出さないよう、自分が感染しないよう、持ち込まないよう日々緊張しながら業務にあたった
- ・家族がいる、基礎疾患をお持ちである、高齢者が同居しているなど、不安を抱えるスタッフは近隣の宿泊施設への自主避難を選択した
- ・入居者様の普段とは異なる様子や周辺症状に対応するための接し方など工夫を重ねたり、意見交換した
- ・ホテル生活など慣れない生活を強いられたが、スタッフ間で連携しながら支えあった

V 今後に活かしたい教訓

- 体調不良者が安心して休める、もしくは相談や申告ができる体制作り
- BCPにおける準備備品と現実に不足感を感じたものとの違いがあった
- 感染リスクの高い場面～入浴、食事、について備えが不足していた
- ゾーニングなど発生時の対応について、研究を重ねる必要を感じた
- 家族様との連携や情報発信と共有について、役割分担や工夫の余地があった
- 訪問診療の協力が得られなかったので、主治医以外の次善の策を準備が必要
- 感染状況や医療の逼迫度合いで陽性者を医療に繋げない、施設内療養について研究が必要